



10 「ありがとう」つなぐ かけ橋になりたい

報告者 熊本県慶誠学園慶誠高等学校 ふくし科主任 日高 航成 先生

1、学校の概要

慶誠高等学校は熊本県中央区熊本市大江にあり、大正11年3月に職業学校として創立され、今年度は創立90年を迎えます。国家資格である「介護福祉士」を熊本市内の高校で唯一受験できる「ふくし科」や調理師免許が取得できる食物科や普通科パティシエコースなどを設置し、多様なニーズに対応できる学科構成の中で639名が学んでいます。平成15年10月11日当時に、全国でわずか5つの高校に選ばれ、熊本県内では熊本市が中核都市となった平成8年度以降、高校での授与は1度もなかった「ボランティア功労者厚生労働大臣表彰」、平成22年には「熊本県青少年育成県民会議表彰」を受けるなどふくし科の生徒が中心になってボランティア活動に熱心な取り組みを続けています。

2、活動について

前述の通り、ボランティア活動の中核を担っているのが「ふくし科」の生徒です。本校では生徒会の中の厚生委員会が各クラスの委員を通して、さまざまなボランティア活動の情報をA4～B4サイズに拡大したものをすべての教室に掲示し、活動の内容・時期によってターゲットを絞り重点的にアプローチをするといった具合に啓発広報活動を積極的かつ継続的に行っています。平成23年度はのべ418名が何らかのボランティアに参加したのですが、熊本県ユニセフ協会が主催するアフリカ子どもの日in kumamotoにはセネガルからの留学生を迎えた平成14年度から毎年参加させていただいています。その他にもサマーセミナー、ハンドインハンド募金やカレンダー募金といった募金活動はもちろん本校文化祭でのユニセフパネル展示と募金活動は国際ソロプチミスト熊本ーさくらの皆さんと協力しながら15年以上続けてきました。昨年度は熊本県ユニセフ協会の方々とウガンダ視察旅行に本校の生徒が同行させていただきました。近年は「ふくし科」が修学旅行のクラス研修で日本ユニセフ協会を二度訪問させていただきました。ユニセフには「学ぶ場」を与えていただいております、紙面をお借りしてですが、本当に感謝申し上げます。

3、生徒の声

～募金活動～

中学時代の私は、ボランティア活動をされている人たちを見て、「すごいなあ」と思う程度で、自分が活動をするとは思ってもみませんでした。慶誠高校に入学して、生まれて初めてのボランティア活動となった「ハンドインハンド」の募金活動に参加させていただきました。人通りの多いびぶれす熊日会館前だったので、はじめのうちは、声があまり出ないにもかかわらず多くの人たちが募金に協力してくださいました。いつのまにか大きな声が出るようになり、協力してくれる人たちの顔が見えてきて、とてもイイ気持ちになりました。「頑張っ
て下さいね」と声をかけられたときは、まるでアンパンマンの「元気100倍！」のような気分でした。そし

ていま、ボランティア活動をしている人を見ると私も役に立ちたい、その時々テーマを私もたくさんの人たちに伝えたいと思うようになりました。



ハンドインハンド募金活動
国際ソロプチミスト熊本-さくらの皆さんと



アフリカ子どもの日in kumamoto ジェンベ演奏にて

～ウガンダ視察旅行～

自分は初めて国外へ出た。

そこは日本とは言葉も違うし風景や文化、人種も違う。肌で感じるのは、今まで怖いや辛いなどの負の感情を思っていたのは間違いであったということだ。

やはり日本に比べて生活環境は悪いだろう。でも自分が見て思ったのは、日本よりも笑顔や笑いで溢れているのだ。きっとこの笑顔は内紛などの辛いことを乗り越えたからこそその幸せから来ていると思う。

実際に見ること、聞くこと、肌で感じることの大切さを知ることが出来た。

そして正しい知識を知ること、偏見を自分の中から無くすこと。それが正しい理解に繋がると学んだ。



ウガンダのブラゴ病院
(子どものHIV/AIDSに関する医療機関) にて